

令和元年度第1回 広島市病院事業地方独立行政法人評価委員会 会議要旨

1 開催日時 令和元年8月7日(水) 17時～18時56分

2 開催場所 広島市役所本庁舎 14階 第7会議室

3 出席者

(1) 委員

秋山委員長、川本委員、木村委員、平川委員、松村委員

(2) 臨時委員

吉川委員

(3) 地方独立行政法人広島市立病院機構

理事長、副理事長、広島市民病院長、安佐市民病院長、舟入市民病院長、リハビリテーション病院長、本部事務局次長、安佐市民病院整備室長、広島市民病院事務長、安佐市民病院事務長、舟入市民病院事務長、リハビリテーション病院事務長、経営管理課長、財務課長

(4) 会計監査人

新日本有限責任監査法人 公認会計士

(5) 事務局

保健医療担当局長、保健部長、市立病院担当部長、医療政策課長、市立病院担当課長

4 議事

(1) 平成30年度地方独立行政法人広島市立病院機構の業務の実績に関する評価について

(2) 平成30年度地方独立行政法人広島市立病院機構の業務の実績に関する市評価案について

5 公開・非公開の別

一部非公開

6 傍聴者

一般傍聴者 なし

報道機関 なし

7 会議資料

資料1 令和元年度 第1回広島市病院事業地方独立行政法人評価委員会審議事項についての説明資料

資料2 平成30年度 業務実績報告書

参考資料1 地方独立行政法人広島市立病院機構 各事業年度における業務の実績に関する評価について

参考資料2 財務諸表 平成30年度(第5期事業年度)

参考資料3 平成30年度決算説明資料

参考資料4 地方独立行政法人広島市立病院機構 中期目標

参考資料5 地方独立行政法人広島市立病院機構 中期計画・年度計画(平成30年度)

8 会議要旨

(1) 委員長の選出について

事務局（市立病院担当課長）が、「広島市病院事業地方独立行政法人評価委員会条例」により、委員長は委員の互選によることを説明。

秋山委員が全会一致で委員長に選出された。

(2) 審議事項の説明について

ア 説明

事務局（市立病院担当課長）が、[資料 1](#)、[参考資料 1](#)により審議事項の概要を説明。

イ 質疑・意見交換

なし

(3) 平成 30 年度業務の実績に関する評価について

ア 法人の自己評価の説明

・ 市立病院機構（経営管理課長、財務課長）が、[資料 2](#)、[参考資料 2](#)、[参考資料 3](#)により説明。

イ 質疑・意見交換

[松村委員]

- ・ 日本医師会総合政策研究機構の資料によると、公立病院について、全国で年間 8,000 億円もの繰入金があるとされており、問題視されている。
- ・ 広島市立病院機構に対する運営費負担金・交付金の額は、資料のどこで確認できるか。

[市立病院機構（理事長）]

- ・ 参考資料 3 の 1 ページ、表 1 の収入に記載してあるとおり、平成 30 年度の運営費負担金・交付金収入は 46.5 億円である。

[松村委員]

- ・ 仮に運営費負担金・交付金収入がなければ赤字ということである。参考資料 3 の 2 ページのように、4 億円の黒字であったことだけを表記すると市民に誤解を与えるのではないか。運営費負担金・交付金収入があるから黒字であったことが明確になるようにすべきではないかと思うがいかがか。

[市立病院機構（理事長）]

- ・ 運営費負担金・交付金の内訳については、参考資料 3 の 16 ページに記載しているとおりである。
- ・ 運営費負担金・交付金が有効に使われているかどうかを重要であると考えている。民間病院では担えない高度先進医療等を行うためには、現在の保険診療の範囲では賄えず、不足する部分に対して運営費負担金・交付金の収入がある。市の財政状況から、総務省基準よりも少ない額であるものの、職員一丸となり工夫・努力をした結果が 4 億円の黒字であると考えている。

[松村委員]

- ・ 運営費負担金・交付金が多すぎるという意見ではない。参考資料 3 の 2 ページの収支の推移を見たときに、運営費負担金・交付金も表記されたほうがわかりやすいのではないかという意見である。当然、救急医療など、税金を使うべきところには使う必要がある。

[木村委員]

- ・ 消費税のことでお尋ねする。会計処理は税抜方式によるものとしており、貸借対照表上では、投資その他の資産の中の長期前払消費税等の科目があるが、損益計算書上では、消費税分はどこに入っているのか。

[市立病院機構（財務課長）]

- ・ 長期前払消費税等を20年間で償却することとしており、損益計算書上では、医業費用の経費の中に含まれる。

[吉川委員]

- ・ 資料2の79ページの中の、小項目「看護師確保の推進」の自己評価を「3」としていることについて、離職する看護師が多いと思うが、実際に現場で人数が足りているのか。
- ・ 看護助手の確保についても重要と考えるがいかがか。

[市立病院機構（理事長）]

- ・ 看護師について、退職者はある程度多いが、充足している。
- ・ 看護助手の確保についても重要であると考えている。

[松村委員]

- ・ 参考資料3の16ページの運営費負担金・交付金の内訳の中で、看護師養成として5,000万円が計上されているが、具体的にどのようなことを行っているのか。

[市立病院機構（事務局次長）]

- ・ 医師や看護師を、講師として市の看護専門学校へ派遣しており、その者たちの人件費相当額が運営費負担金・交付金収入となっている。

[秋山委員長]

- ・ 資料2の59ページの患者満足度について、各病院間の患者満足度の差が大きいと感じるが、4病院でアンケートの項目等は統一されているのか。

[市立病院機構（理事長）]

- ・ アンケートの項目等について、現状は統一していないため、今後は4病院で整合性を図る必要があると考えている。

[木村委員]

- ・ 無形固定資産について、法人内利用のソフトウェアは利用可能期間に基づいて6年で償却しているようであるが、5年で償却してもよいのではないかと思う。
- ・ 退職給付について、数理計算上の計算基礎に用いる割引率を0.9%としているのはなぜか。

[市立病院機構（財務課長）]

- ・ 退職給付債務の評価については、制度に精通した専門機関に委託をしている。
- ・ ご指摘の点については、地方独立行政法人会計基準及び地方独立行政法人会計基準注解第6条の継続性の原則を考慮しながら、会計監査人等への相談を行った上で検討する。

[秋山委員長]

- ・ 資料 2 の 96 ページの収入の確保について、病床利用率や医療費個人負担分の収納率が目標値を下回る病院もある中、自己評価を「4」とした理由をお聞きしたい。

[市立病院機構（理事長）]

- ・ 病床利用率や医療費個人負担分の収納率については、年度計画の目標値を高く設定しすぎたこともあり、目標値を下回っている病院があるが、病院コンサルタントの協力の下、収支状況の把握・分析を行い、収入の確保に向けた取組を進めたことで、医業収益が昨年度より 20.4 億円増加したことを総合的に勘案して、自己評価を「4」とした。

[川本委員]

- ・ 資料 2 の 26 ページにある、舟入市民病院の人間ドックの充実について、年度計画の目標値である 3,872 人を 1,000 人程度下回っていることから、自己評価を「2」としたのだと思う。目標値を高く設定した背景には、健診者数を増やすための具体的な対策があったということか。

[市立病院機構（理事長）]

- ・ 中期計画において設定した令和 3 年度の目標値である 5,000 人と、平成 28 年度の実績である 2,131 人と結んだグラフを描くことで、平成 30 年度の目標値を設定した。

[秋山委員長]

- ・ 人間ドックの目標値については、高すぎるのではないかと感じる。
- ・ クリニカルパス適用率について、これ以上拡大することは難しいのか。

[市立病院機構（理事長）]

- ・ 適用率を拡大する努力は必要であるが、パスの見直しを行うことのほうが重要と考えている。

(4) 議事の実施について

- ・ 業務実績に係る評価について審議を行うに当たり、委員が自由な議論をできるように非公開で行うことで委員の同意が得られたため、これ以降の議論は非公開で実施。

【以下非公開】